

モロッコ事務所から ひとこと

若年層の高い失業率の改善、教育の質・アクセスの向上を目的に、職業訓練プログラムの情報コースへの支援が要請されていました。現場では、モロッコ人職員と協力して生徒の意欲向上や教材・設備の充実に取り組むことが求められており、進藤さんはさまざまなアイデアを提案し、同僚からの信頼を得ています。



企画調査員(ボランティア事業)*
望月拓馬(もちづき・たくま)

* 隊員の活動全般を支援する「ボランティア事業支援のプロ」。また相手国の要望を調査して要請開拓を行うなど、隊員活動全体の運営を行う。

+one information

飲んで、コミュニケーション!

“飲みニケーション”と聞くと、居酒屋に集まってお酒を飲みながら、おたがいに腹を割って語り合う——そんなイメージが浮かび、お酒を飲む国ならではの文化だと思いませんか?

モロッコはイスラム教国家で、ほとんどの人はお酒を飲みません。しかし、彼らも大切にしている飲みニケーションがあります。それが“お茶”飲みニケーションです。居酒屋ではなくカフェに集まり、お酒ではなくお砂糖たっぷりの伝統的なミントティーを飲みながら、おしゃべりに興じます。昔から続くモロッコの文化です。

会社の同僚とのコミュニケーションをとるにも、お茶は欠かせません。仕事が終わるとみんなでカフェへ行き、仕事の話、家族の話、政治の話などをして過ごします。時には話すことがなくてもカフェへ行き、一緒にお茶を飲みながらゆっくりと時間を過ごします。

そんな彼らですから、街にはそこら中にミントティーを出すカフェがあります。カフェだけでなく、普通の雑貨屋さんなどに入っても、仲良くなるとお茶を入れてくれたり、タクシーの運転手さんも車の中でグラスにお茶を入れて飲んでいたりするのでびっくりします。

お酒の代わりにお茶なのか、それともそもそもモロッコ人がお茶を好きなのか、確かなことはわかりませんが、お酒のないモロッコだから広がった“飲みニケーション”なのかなと思っています。(進藤堅督)



イラスト ● さかがわ成美



ここは大事だから覚えよう

情報コースで授業を行う進藤さん。



こうすればもっと使いやすいよ

ソフトウェアの操作方法を説明する。



2019年度から開始された現地の情報教師向けネットワーク講座にて。



JICA海外協力隊
がゆく Vol. 15

情報通信技術教育の
質の向上を目指して
活動している隊員を紹介します。

in モロッコ

進藤堅督

しんどう・けんすけ 27歳
出身地:群馬県 職種:PCインストラクター
任期:2018年7月~2020年7月

PCスキルを身につけ、
将来に
つなげてほしい



海外協力隊に興味を持ったのは大学時代でした。協力隊OBだったゼミの先生の体験談がとても興味深く、「いつかは自分も」と思っていました。卒業後は就職。仕事がいそがしくなるなかで協力隊への応募には迷いもありましたが、会社の同僚が協力隊に参加したのをきっかけに自分も挑戦してみようと思った。

協力隊で生かそうと考えたのはPCスキルです。エクセルとデータベースを連携させた業務の効率化や、オフィスソフト活用方法などを社内でも指導した経験があったので、協力隊も職業訓練校での活動要請を中心に応募しました。赴任先に決まったのは、モロッコ。国民共済事業団が運営する職業訓練校の情報コースで、私が授業を行うこともありましたが、現地の先生たちと協力して授業を行い、よりよい授業にするためにアドバイスしています。

なかでも、Moodleという教育用ソフトで自動採点機能付きのテスト教材を作って活用したことで、生徒たちはコンピュータを使ううえで必要な知識を確認でき、彼らの意欲も引き出せたと実感しています。そもそも職業訓練校には、経済的・社会的に困難な状況に置かれていて、中学や高校を中退している生徒も多く、勉強への意欲は一概ではありません。そんな生徒たちが、このテスト教材で満点を狙おうと何度も活用し、「学校外でも教材が使えないか」と聞いてきたときは、やる気を喚起できたと、同僚の先生たちと喜び合いました。

コースの内容には課題も多く日々手探りの状態ですが、試験の内容や授業の進め方、教材の作り方などを同僚と一緒に考えています。ただ、その取り組みが仕事を増やし、負担になる可能性もあります。そこで先生たちにも受け入れられるように仕事の分担も一緒に提案するなどの配慮をして、私が帰国しても授業が継続できるような工夫をしています。

小さなことでもくり返し、時間をかけて、あきらめずに働きかけていけば道は開けると感じるようになり、多くの生徒がPCスキルを身につけ、就職など将来への希望につながってほしいと願っています。